

第4節

地域活性

地域の魅力を活かした賑わいがあふれるまちづくり

- 4-1 農業
- 4-2 商工業
- 4-3 労働環境
- 4-4 魅力づくり

地域活性

地域の魅力を活かした
賑わいがあふれるまちづくり

農 業

目指す姿

協働によるまちづくりに 地域の「農」を活かすまち

町民が、「農・農地」の持つ農産物の供給、景観・自然環境の保全、防災などの多様な機能の大切さ、意義を共有し、みんなで地域の農を支えるまちを目指します。

4-1



総合戦略



現況と課題

- 輸入農産物における農薬の残留、食品の不正表示等、食の安全を揺るがす問題が相次いで発生しており、消費者の食の安全に対する意識が高まっています。それに伴い、生産者の顔の見える安全安心な地元農産物に対するニーズも高まっており、月2回開催している「上牧ふれあい朝市」は、多くの利用者で賑わっています。
- 農業従事者の高齢化とともに後継者の不足により、遊休農地が増加しつつあります。
- 農業振興、農産物の供給機能の向上を図るため、新規就農者の育成・確保とあわせて、優良農地の確保に取り組む必要があります。
- 安全安心な農産物のニーズに加え、家庭菜園や農作物の収穫など、農体験を求めるニーズも高まっています。今後は、都市部に住んでいる人が訪れ、遊休農地を耕すなどの農業の新たな仕組みづくりが必要です。
- 近年、有害鳥獣による農作物被害が増大していることから、地域と連携を図るなど、効果的な防除対策に取り組む必要があります。
- 現在、「法務局」にある地図は、明治初期につくられた公図を基にしており、当時の測量技術が未熟であったため、実際の土地と大きさや形状が異なっており、隣地との境界紛争や税制上の不公平、災害時の土地復元に係る諸問題等が発生しています。これらを是正するため、最新測量技術を用い、正確な地図と台帳を整備します。

関係する町の条例・計画等

農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
<2022年(令和4年)3月>

施策の展開方向

① 農地の有効活用

担当 ▶ まちづくり推進課

- 農地の流動化を促進することで、意欲のある担い手への農地集積や遊休農地の発生防止、農地保全に努めます。
- 貸し農園や体験農園等の整備支援や農業の魅力を広める活動を通じて、自然志向が高まる都市住民との交流機会の創出や関心惹起を図ることで、農地の有効活用や担い手の確保に努めます。

② 生産体制の充実

担当 ▶ まちづくり推進課

- 認定農業者^{**2}など中心的な担い手を育成するとともに、定年帰農者など新たな担い手の確保を通じて、生産体制の充実を図ります。
- 朝市等の新鮮農産物の産地直売体制を支援することで、販路の確保や上牧町の農産物の認知度向上につなげます。
- 持続可能な農業の実現に向け、農家の後継者に頼る農業から、地域が協働して農を支える仕組みを構築し、新規就農者の育成・確保や経営安定化、農産物の高付加価値化を図ります。

③ 優良農地の確保

担当 ▶ まちづくり推進課

- 農道や用排水路の整備など、生産性向上のための基盤整備を進めます。
- 農地等のさらなる整備・活用を図るため、地籍調査を実施します。
- 有害鳥獣による被害を軽減するため、地域と連携しながら被害防除対策に取り組みます。

想定される取組

- 人・農地プラン^{*1}による担い手への農地の集約化
- 貸し農園や体験農園化の推進

- 認定農業者の確保
- 奈良県新規就農者確保補助金制度活用のあっせん
- 就農支援(担い手育成)と農産物の販路確保支援 ▶ [戦略④](#)

- 地籍調査の実施
- 生産基盤整備の推進
- 地域との連携による有害鳥獣被害防除対策の実施

成果指標

項目	KPI			総合戦略 KPI
	基準値 (R2)		目標値 (R8)	
新規就農者数(年間)	—	↗	1人	4-2-①
地籍調査実施地区数(累計)	2地区	↗	5地区	
遊休農地の活用件数(累計)	1筆	↗	4筆	

※その他の成果指標はP.100参照

協働アクション

(町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 地域団体、民間事業者(農業者)は、遊休農地の解消を図り農地の保全に努めます。
- 民間事業者(農業者)は、都市近郊という立地条件を活かし、鮮度の高い安全安心な農産物を提供します。
- 地域団体、民間事業者(農業者)は、担い手の確保や農地の集約化に協力します。
- 町民は、有害鳥獣を発見した場合、行政に速やかに連絡するとともに、防除対策に協力します。



五軒屋田園風景



地元野菜の直売「上牧ふれあい朝市」

用語解説

- ※1 「人・農地プラン」 農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体や地域における農業のあり方などを明確化し、市町村により公表するもので、人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」と呼ばれています。
- ※2 「認定農業者」 「農業経営基盤強化促進法」に基づく農業経営改善計画の市町村の認定を受けた農業経営者や農業生産法人のことで、「担い手農業者」とも呼ばれています。

地域活性

地域の魅力を活かした
賑わいがあふれるまちづくり

商工業

目指す姿

賑わいと豊かさを 感じることでできるまち

大型商業施設の立地する中心地は町内外の人々で賑わい、町内では生活に根ざした地域商業や地域資源を活かした個性的な商工業が展開されており、今後さらに誰もが賑わいと豊かさをを感じることでできるまちを目指します。

4-2



総合戦略



現況と課題

- 大型商業施設の進出により、町外から多くの買い物客が訪れ、中心地においては賑わいが創出されています。町内の店舗数や年間商品販売額はやや増加傾向にあります。依然として既存商業施設の空洞化、後継者不足、新型コロナウイルス蔓延の長期化など、地域商工業の衰退が懸念されています。
- 上牧町商工会を中心に、中小企業者向け融資制度のあっせんなど、事業者に対する支援を実施していますが、地域全体の産業活性化にはつながっていないのが現状です。
- 町民のライフスタイルの変化や今後の高齢社会の到来を見すえ、集客力のある大型商業施設と地域に根ざした個性豊かな地域商業施設が相乗効果を生むことのできる発展を目指すとともに、地域としての新たな魅力の創出に努める必要があります。

町内飲食店が連携した商品開発

上牧町を盛り上げようと、上牧町商工会が会員飲食店と連携し、上牧町制50周年特別ネーム「片岡の里 春ちゃんの黒カレー」を開発。上牧町商工会や町内の店舗などで販売しています。

名前の由来である片岡城は、中世の大和武士「片岡国春」によって築かれ、片岡春利の頃には松永久秀軍や織田信長軍と戦国絵巻を繰り広げた、上牧町の歴史を語るうえでは欠かせない場所です。
片岡城周辺にいた人は、真っ黒になるまで働いていた職人魂の黒をイメージした黒カレーは、見た目のインパクトもさることながら、ごろっとした鶏の旨味、野菜の甘味と後からくるピリリとした辛味が癖になります。



「片岡の里 春ちゃんの黒カレー」

関係する町の条例・計画等

施策の展開方向

① 商工業の振興

担当 ▶ まちづくり推進課

- 商工業者の経営支援や地域活性化に取り組む商工会の運営支援を行うとともに、商工会や関係機関と連携し、経営指導体制の充実による経営者の育成や起業支援に努めます。
- 中小企業者が資金融資を受けられ、経営の安定化につなげられるよう、融資認定や関係機関の融資制度の活用情報の提供に努めます。
- 経営の革新に取り組む事業者と関係機関との連携支援をはじめ、様々な課題を抱える町内事業者に対する支援体制の構築・拡充に努めます。

② 地域に根付いた魅力ある地域商業の活性化

担当 ▶ まちづくり推進課

- 地域農産物の町内消費促進を支援するため、商業施設や地域イベントでの販売など、場と機会の確保に努めます。
- 町内外に上牧町の魅力をPRすべく、地域資源を活用した新たな特産品の開発を進めます。

想定される取組

- 経営指導体制の支援
- 中小企業者のための融資制度のあっせん
- 事業者と関係機関との連携機会の創出
- 地域資源を活用した商品開発と販路確保支援 ▶ [戦略④](#)

成果指標

項目	KPI		総合戦略 KPI
	基準値 (R2)	目標値 (R8)	
新たな地域特産物(累計)	—	↗ 2品目	4-2-①
創業支援による新規事業所数(累計)	0事業所	↗ 3事業所	

協働アクション

(町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 町民は、地域商業の活性化を担う一員としての意識を持ち、地域内消費を心がけます。
- 民間事業者は、地域に根ざした店舗経営を目指すとともに、積極的にイベントやPR活動を実施します。
- 民間事業者は、商品開発や事業提案などの地域の魅力向上、地域活性に努めます。



空き家を利用した創業支援



大規模商業施設

地域活性

地域の魅力を活かした
賑わいがあふれるまちづくり

労働環境

目指す姿

仕事と生活の
調和のとれた
豊かな生活を送れるまち

仕事と生活の調和のとれた働き
方ができ、町民一人ひとりが意欲
を持って働きながら豊かさを実感し
て暮らせるまちを目指します。

4-3



総合戦略



現況と課題

- わが国の社会は、人々の働き方に関する意識や環境が社会経済構造の変化に必ずしも適応しきれず、仕事と生活が両立しにくい現実に直面しています。
- 誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発などにかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活ができるよう、社会全体で仕事と生活の双方の調和を図ることが必要です。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響や多様な働き方への注目により、全国的にテレワーク^{*1}やワーケーション^{*2}などのニーズが増加しています、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)のとれた働き方ができる社会を実現することは、町民一人ひとりが意欲を持って働きながら豊かさを実感して暮らせるようにする観点から重要な課題となっています。
- 町内には再就職を望む元気な高齢者や子育てを終えて時間の余裕のある親世代、ひとり親世帯等、労働に制約があるが、働く意欲のある町民もおり、様々なライフスタイルに対応した労働環境を創出することは、町民の生活の安定や生きがいづくりにつながります。

上牧町移住支援金事業の実施

上牧町では県内企業などの人材不足の解消と県内への移住・定住を促進させるため、東京圏から移住し、県内での就業や起業をしようとする方に対し支援金を給付しています。

- 問い合わせ先
企画財政課 総合企画係

上牧町では県内企業などの人材不足の解消と県内への移住・定住を促進させるため、東京圏から移住し、県内での就業や起業をしようとする方に対し支援金を給付しています。

給付額 2人以上の世帯の場合 100万円 単身世帯の場合 60万円

関係する町の条例・計画等

第2期上牧町子ども・子育て支援事業計画
<2020年(令和2年)3月>

施策の展開方向

① 安心して共働きできる環境の整備

担当 ことも未来課

- 夫婦がともに助け合い、互いの能力や個性を認め合うことで仕事・生活・その他あらゆる分野でいきいきと活動できる社会を目指し、子育て支援の充実を図り、共働き世帯に対する良好なワーク・ライフ・バランスの推進を図ります。

② ハローワークや町内事業者等と連携した就職支援

担当 企画財政課

- ハローワークと連携し、町民の様々なライフスタイルに対応できる就職情報を発信するとともに、出産後に再就職を希望する女性等を対象にした就職準備セミナーの開催や町内事業者とのマッチングを支援するなど、上牧町で暮らし動く環境の提供に努めます。
- 県と連携して移住支援金事業^{※3}を実施し、県内企業などの人材不足の解消と県内への移住・定住促進を図ります。

③ 子育てママの社会復帰・キャリアアップの推進

担当 企画財政課

- テレワークを活用し、子育てしながら柔軟に働くことができる環境を確保するとともに、子育て期間中の女性の社会復帰やキャリアアップに向けてプランクの解消やスキルの習得につなげます。

想定される取組

- 子育てと就労の両立支援 ▶ 自戦略④
- 子育て支援の充実 ▶ 自戦略①
- 特色ある乳幼児教室の開催 ▶ 自戦略①

- 就職情報発信
- 就職準備セミナーの開催 ▶ 自戦略④
- 町内事業者とのマッチング支援 ▶ 自戦略④
- 移住支援金事業 ▶ 自戦略②

- 子育てママ就業支援事業の実施 ▶ 自戦略④

成果指標

項目	KPI			総合戦略 KPI
	基準値 (R2)		目標値 (R8)	
移住支援金申請件数(年間)	0件	↗	1件	2-2-②
子育て支援セミナー参加延べ人数(年間)	—	↗	40人	1-2-②
子育てママ就業支援施設での延べ雇用者数(年間)	26人	↗	50人	4-1-②

※その他の成果指標はP.101参照

協働アクション

(町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 町民は、生活と仕事の両立を考え、自身に合った働き方を選択します。
- 町民は、行政サービスの情報収集に努め、身近にいる対象者に行政サービスを紹介します。
- 民間事業者は、労働環境の向上に努めます。



子育てママ就業支援事業「ママスクエア」



特色ある乳幼児教室(保育所での和太鼓教室)

用語解説

- ※1 「テレワーク」 勤労形態の一種で、情報通信技術を用いて時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態を指します。
- ※2 「ワーケーション」 「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方のことです。
- ※3 「移住支援金事業」 東京23区に在住または通勤する方が、東京圏外へ移住し、起業や就業等を行う方に、都道府県・市町村が共同で交付金を支給する事業です。上牧町では、単身の場合60万円、世帯の場合100万円支給されます。

地域活性

地域の魅力を活かした
賑わいがあふれるまちづくり

魅力づくり

目指す姿

歴史・文化・
自然の魅力を
感じられるまち

町内の地域資源は地域住民との協働によって整備が進められ、それらを巡るかんまき笹ゆり回廊では上牧らしい地域資源を見に訪れる多くの人々で賑わう、歴史・文化・自然の魅力を感じられるまちを目指します。

4-4



総合戦略



現況と課題

- 上牧町に点在する歴史文化資源(史跡上牧久渡古墳群や片岡城跡等)や自然資源(秩父池周辺や滝川等)を巡るルートを「かんまき笹ゆり回廊」と位置づけ、上牧らしい魅力ある地域資源として情報発信し、その活用に向けた取組を進めています。
- これらの地域資源については、魅力拠点として必要な整備を進めていますが、整備は一部分にとどまっており、また、事業費の確保や町民所有資源の取り扱い方、不十分な情報発信なども課題となっています。
- 近隣自治体にも多くの自然環境や文化資源、観光資源が点在しており、北葛城郡4町では、各町の地域資源を巡る「観光ガイド『ほっかつ“歩っ活”ウォーキングマップ』」を作成しています。
- 今後は継続的に歴史文化や自然環境を保全するとともに、人々が訪れたいくなるような拠点整備を進め、拠点間を回遊しやすくするための工夫や広域連携の強化、SNSを活用した効果的な情報発信等を行い、地域資源としての魅力向上に取り組む必要があります。

上牧町の魅力を巡る 観光マップを作成

町のシンボル「ササユリ」を見ながら上牧町散策を楽しめる全長約7kmのコース「かんまき笹ゆり回廊」には、片岡城跡、滝川遊歩道、浄安寺、史跡上牧久渡古墳群などがあります。見ごろは5月下旬から6月中旬です。まちづくり推進課で観光マップを配布しています。



観光マップ
「笹ゆり回廊から歴史・魅力を巡るまち上牧町」

関係する町の条例・計画等

施策の展開方向

① 上牧町の知名度アップ

担当 ▶ まちづくり推進課 / 企画財政課

- コミュニティ組織等の協働による地域資源(片岡城跡など)を生かした名所づくりを推進します。
- 観光マップ「笹ゆり回廊から歴史・魅力を辿るまち上牧町」の充実及び関係機関発行の情報誌やホームページ等によるPR を推進します。
- イベント等への参加により町の認知度向上を図ります。
- 自然環境・文化資源の保全や魅力の発信、新たな観光プログラムの企画・周知・運営に取り組みます。
- 町内外の人が気軽に参加できるSNSを活用した様々な企画に取り組みます。

② 地域資源をつないだネットワークの形成

担当 ▶ まちづくり推進課

- 大学・NPO と連携する機会を増やすなど、新たな地域資源を創出することで、魅力の向上につなげます。
- かんまき笹ゆり回廊の整備によって町内の歴史文化遺産を巡ることのできるネットワーク整備に取り組みます。

想定される取組

- 協働による名所づくり整備の推進
- 案内板の設置
- 上牧町のくらし方魅力発信
- 観光プログラムの企画・周知・運営 ▶ [自戦略②](#)
- SNSを活用した情報発信と企画の実施 ▶ [自戦略②](#)
- イベント等におけるふるさと回帰・移住促進PR活動の実施 ▶ [自戦略②](#)
- 関係機関との連携機会の創出
- かんまき笹ゆり回廊を活用したにぎわい創出事業 ▶ [自戦略③](#)

成果指標

項目	KPI			総合戦略 KPI
	基準値 (R2)		目標値 (R8)	
SNSの延べフォロワー数	約2,500人	↗	5,500人	2-2-②
観光イベントの実施・参加回数(年間)	0回	↗	2回	2-2-②
かんまき笹ゆり回廊整備状況進捗率	47%	↗	100%	3-1-②

※その他の成果指標はP.101参照

協働アクション

(町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 町民は、町の魅力づくりに資する提案やまちづくり活動を行うなど、可能な範囲で協力します。
- 町民は、開催されるイベント等に積極的に参加します。
- 町民、地域団体、民間事業者は、SNSを活用した企画に積極的に参加するとともに、情報の拡散に協力します。



芝桜(滝川沿い)



案内板(片岡城跡)

